

## 1. 排水対策の徹底

「そば」は、初期の湿害に極めて弱い作物です。排水対策を徹底し、発芽不良や立枯れなどの発生を防止しましょう。

- ①用水路や水口からの漏水をしっかりと防止する。
- ②額縁排水溝は早めに設置し、深く掘り下げた排水口へ連結する。(大麦跡では額縁排水溝の手直しを！)
- ③透水性の悪い圃場では心土破碎を実施し、圃場の乾きを促進する。
- ④播種後は基幹排水溝(1.5~2m間隔)を設置し、額縁排水溝や排水口と確実に連結する。



サブソイラによる心土破碎



額縁排水溝の設置

### ※圃場選定時の注意点

- 単作の場合：なるべく水はけの良い圃場を選び、額縁排水溝の設置等の排水対策を行いましょう。
- 後作の場合：そばの播種適期を考慮し、大麦跡やWC S跡等の圃場を選びましょう。水稻跡の場合でも、収穫の早い早生品種の圃場を選び、稲刈直後に排水対策を実施して早く圃場を乾かしましょう。

## 2. 土づくり資材の施用

pH6.0~6.5を目標に石灰質資材(粒状貝化石 100kg/10a)を施用するとともに、堆肥等を積極的に施用しましょう。

## 3. 耕起及び播種

### (1) 耕起

- 耕起後、播種前に雨に遭うと、その後の碎土・整地・播種作業が困難になります。一連の作業は、天気のよい日に一日で行いましょう。
- 発芽時の過湿は著しく発芽率を下げるため、**播種後に大雨が予想される場合は、播種作業を延期**して下さい。



播種後2日目に冠水した圃場

冠水した部分が出芽不良となっている。

### (2) 播種時期及び播種量

- 播種作業は、平坦地では**8月中旬から下旬**を目安として行いましょう。(中山間地は8月上旬から)
- 播種時期が早すぎると開花時の高温による稔実不良や倒伏の危険が、遅すぎると初霜に遭う危険があるので、生育期間の気象条件を考慮して播種時期を決めましょう。
- そばは雷雨や台風等により倒伏しやすいため、被害が大きくなるように**播種時期を分散**させましょう。

播種時期の目安	播種量		目標苗立ち数
	散播	条播	
8月中旬~下旬	6~7kg/10a	4~5kg/10a	100~120本/m <sup>2</sup>

\* 播種晩限: 9月10日頃(参考: 初霜の平年値は11月20日頃)



強風で倒れたそば



播種の様子(条播)

**散播**：ロータリーで耕起後、背負式動力散布機等で均一に種子を散布し、ハローで圃場表面を浅く攪拌して覆土する。  
**条播**：ドリルシーダー等を使用し、播種深度3cm程度、条間30cm程度を目安に播種を行う。(トラクターに片培土機等を装着することで、排水対策も同時に実施できる。)

## 4. 基肥

- 基肥は、成分量で10a当たり**窒素2kg**程度を目安とします。  
(窒素が多いと過繁茂になり倒伏を招きやすいので、地力に応じて施肥量を加減する。)
- 肥沃な圃場や前作物の肥効が残っている場合は、基肥は施用しないようにしましょう。
- 初期の生育量が不足した場合は、開花始め頃(播種後20~30日)までに窒素成分で2kg/10a程度を追肥しましょう。

### 【基肥例】

**BBO84:20kg/10a程度**

【次回のそば情報(病虫害防除等)は8月下旬に発行予定です。】